

第2回多古町総合振興審議会・多古町総合戦略推進会議

開催日：令和6年11月1日（金）

会 場：多古町役場 大会議室

時 間：午後2時30分～

出席者：別紙参照

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議題

（1）現行総合計画・総合戦略の評価について

資料に基づいて事務局より説明を実施。

（会 長）：町民と行政の評価を比較すると、町民の方が比較的辛口評価となっていて行政の評価と乖離がある。回答した人の居住歴・年齢の差があるのではないかと、例えば、居住歴が長い人と短い人では多古町に対して期待している度合いが変わってくる。以前から多古町で暮らしている方は、町の実情も踏まえているが、多古町に越してきた方は、利便性を求める声が大きくなる傾向にあるかもしれない。また、20歳代のアンケート回答率が低いことも評価に関係しているかもしれない。

（委員A）：各分野において評価の点数がそれぞれ違うが、ここは揃えられないのか。そろえた方がそれぞれの評価結果を比較しやすいと思う。

（会 長）：満足度については評価を合わせることはできると思うが、%の評価では基準をどこに置くかが難しくなるため、合わせる事が難しくなる。今回の評価は前期基本計画における評価なので、基本的には半分を超えていることが1つの基準にはなると考えられるが、予算の差などに関連する事業の達成度について並べて推し量ることは難しいと考えられる。

（委員B）：産業に関する分野において、各課の指標評価が高くなっているのに対して、住民満足度はマイナスとなっている。これはやっている事業と住民の意向が異なっている、相違があるのではないかと。

（会 長）：その可能性もある。例えば基本政策3の賑わいを挙げると、産業や観光、移住定住などの行政が想定している賑わいと町民が考えている賑わいの形が違うことが考えられる。

（事務局）：観光や移住定住などの分野に関しては町民にはプラスの評価だが、農業や商工業の賑わいに関してはマイナスの評価となっているため、行政が行っていること自体は評価されているが住民意向、住民の思う町の姿にまだ届いていないことも考えられる。

この施策の評価は、各担当課における主観的な評価となるので、担当者の判断が評価に影響することもある。産業分野の担当課に話を聞かせてもらった際も、町民が思い描く姿の実現には遠いので、指標と施策の評価に違いが出てしまうといった話もあった。

(会 長)：子育てに関しては住民にとっても高く評価されているため、行政が力を入れていることは伝わっている。

(事務局)：おっしゃる通りかと思う。町民の方から子育てに関する評価が上がっているのは、そういった部分の周知もしっかりと進めてこられたことも要因の1つであると考えられる。行政としては、たくさんの取組の推進は図っているが、その取り組んでいることが町民に伝えきれていない部分もあると思う。

(委員C)：評価の手法や評価結果については、理解したが、子育てなどの評価は高いが、農業などが低いということになると、点数化した時にバランスをとることが難しくなる。その差に目がいってしまう可能性もある。

(会 長)：その問題はあると思う。点数化すると点数が独り歩きしてしまうため、施策の背景や施策がもたらした効果についてあまり意識されなくなる。町民の意見はあくまでも生活の中で実感している状況をふまえて評価しているのだと思う。そういった中で、公共交通に関してはやはり町民の意見が多い。後期計画以降で抜本的な解決が求められるかもしれない。

(2) 町民アンケートについて

資料に基づいて事務局より説明を実施。

(会 長)：PIIに関して、右に行けば行くほど重要度が高く、上に行けば行くほど満足度が高くなっている。「子育て」では町民としての重要度も高く、評価も高くなっているが、「公共交通」に関して町民は大事だと考えているが、評価が低い。これからはこのような点に関して強く推し進めていくべき。

今回のアンケートは若年層の意見が少ないため、意見が偏ってしまっている可能性も高い。前回と比較して回収率も低くなってしまった、どうすれば回収率が上がるかも考えていくことが必要であると思う。

(委員D)：アンケートの2,000票については、各年代に按分されて配布されているのか。10～20歳には、どれくらいの数のアンケート票が配布されているのか。

(事務局)：多古町の年代構造に割り戻して配布しているため、多古町の人口ピラミッドと構造的には同じとなっている。配布数の詳細のデータについては、持ち合わせていないので、ここで詳細をお答えすることは難しいが、10～20歳代では56票の回答があり、この年齢層の回収率は約2割なので、この年代には280票ほど配っている計算になる。

アンケート結果は年代別での結果の差が色濃く出ている。例えば、若年層は、仕事に合わせて居住を移す傾向があったり、住み続けたい意向も低めであったり、年齢による居住意向の差がみられる。

(会 長)：P5に記載のある居住歴に関してみると多古町以外から転入された方が4割程度の回答となっていて、一番多くなっている。そういった方からの意見についても、今回のアンケートでは一定意見聴取できたと考えられる。

しかし、居住歴や年齢にかかわらず、公共交通への意向は強い。意見を取り入れた取り組みを進めてほしい。

(3) ワークショップについて

資料に基づいて事務局より説明を実施。

(会 長)：各担当課に対してワークショップの結果はどのように扱われるのか。

(事務局)：意見として取り入れられるものは各担当課に伝え、反映する。また2回目のワークショップでは「多古町を取り巻く変化」に対して、“住民が取り組めること”を聞いた。その内容については、計画において「住民が取り組めること」として記載していきたい。

(会 長)：これからは行政がまちの事業を全てできる時代ではなくなるため、町民ができることについては協働の姿勢を重視して後期基本計画を策定していかななくてはならない。多古町は10年前から「志」の文字を使った志民活動として、まちづくりに取り組んでいる。協働や参画に関しては大変先進的な町である。これからも志民協働のまちづくりをしていかなければならないので、総合計画におけるそういった視点の記載は重要。

(委員A)：前回の審議会で伺ったことであるが、企業や多古町で働いている人に対してのアンケートのようなものは実施されたのか。

(事務局)：企業・団体に関してはヒアリングシートを配布して、意見聴取を行っている。

(会 長)：高校生に対しては、アンケートを行っているのか。

(事務局)：高校に対してヒアリングシートでの意見聴取を行っている。高校卒業後の進路や就職に関して伺っており、町と連携して取り組んでいきたいことやこれからの意向についても聞かせていただいた。

(会 長)：それらのアンケートの結果については、次回審議会までにまとめ次第委員に送付してもらいたい。

(4) 総合計画（後期基本計画）・総合戦略計画構成案について

資料を用いて事務局より説明を実施。

(会 長)：計画の構成について、総合戦略を第4編に加えた構成で問題はないか。

(委員一同)：異議なし。

(会 長)：総合戦略含め、国の動向も踏まえた策定を進めて行ってほしい。また、基本構想については、長期の計画ということで、現行のままの形とさせていただくことでよろしいか。

(委員一同)：異議なし。

(会 長)：基本計画の基本政策1～6についても前期計画同様の項目で良いか。

(委員一同)：異議なし。

(会 長)：各委員の皆さまにご承認いただきたい部分は以上であると思う。今後も詳細な取り組み内容含め、検討を進めて行ってほしい。

(5) その他

今後のスケジュールについて事務局より説明

(事務局)：次回審議会は11月25日の午後14時からを予定している。その後、12月の定例会に議会に提出し、1月にパブリックコメントを実施する予定。

(会 長)：次回資料は審議会の一週間前（11月18日）に委員に送付いただきたい。

4. 閉会

以上